

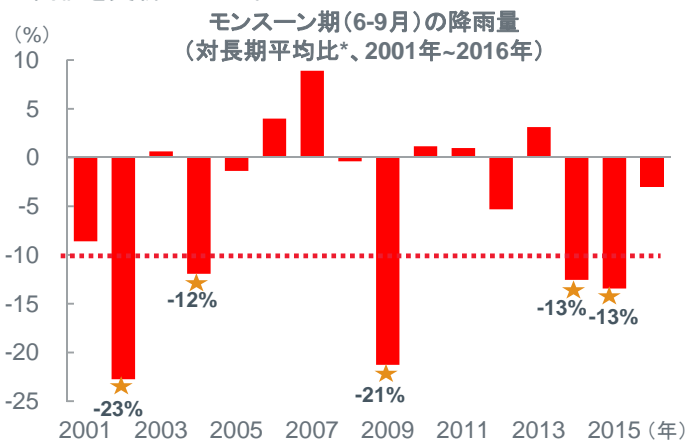
Eastspring Asia Now

Vol.8 良好なモンスーン降雨量の見通し(インド)



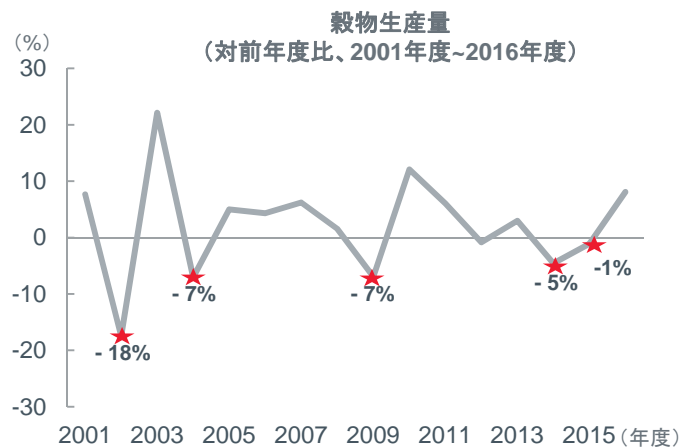
モンスーン降雨量の予測にスーパーコンピューターを導入

- ▶ インドでは6月から9月にかけての雨季をモンスーン期と呼びます。インドでは食品価格が物価全体に与える影響が大きいため、農作物の収穫を左右する(農業用水の多くを雨に頼っているため)雨量の予想が重要視されています。特にこれから9月までは、降雨の予報や実績値がインドの金融市場でも注目されます。
- ▶ インドでは過去、モンスーン期の降雨量が長期平均を10%以上下回った年には、穀物生産量が減少し、人口の約6割に相当する農村部での所得低下により消費が冷え込む傾向がありました。インド気象局(IMD)長官が、5月第2週に「今年のモンスーン期の降雨量が4月18日に発表した予想を上回る可能性がある」と発言した事を好感し、インド株式市場は最高値を更新しました。



*長期平均: 1951-2000年の平均値。

出所: インド気象局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。



出所: インド農業省および各種報道のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。年度は4月から翌年3月。

気象予報にスーパーコンピューターを利用。世界で最も精度が高い予報を目指す。

- ▶ 2017年にIMDは、モンスーン期の気象予報に初めてスーパーコンピューターを使った「ダイナミックモデル」を導入しました。過去2年間は試験的に一部で使用していましたが、より多くの気象状況を同時に分析するため、長期にわたり予報に活用していた「統計的手法」より精度が高いと判断し、全面的に導入したものと考えられます。
- ▶ インドでは従来より2つの気象衛星を活用し、各地の気象状況を常時観測していますが、専門家はより正確な予報により、インドの農産物生産量を15%程度引き上げるのに役立つと試算しています。
- ▶ エルニーニョ現象*とモンスーンの直接の結びつきは解明されていませんが、オーストラリア気象局が直近の気象観測で、「海面の水温が上昇するエルニーニョ現象の発生確率が低下している」と発表したことを受けて、インドの降雨予想が上昇したとのことです。4月に発表した第一次予報では、長期平均比の96%の降雨量とのことでしたが、6月初旬に予定されている次期予報では、同100%に引き上げる可能性があると考えられています。

インドの発明:「車載用の牛よけ警報装置」

ヒンズー教徒は牛を神聖視するため、インドでは幹線道路に牛が歩いていることがよくあります。インドの技術者は車との接触事故を防ごうと、車載用の警報装置を開発しました。車のダッシュボードに搭載したカメラが周りを観測し、高速道路などに侵入した牛が走行に危険かどうかプログラムで即時に判断、運転手に警報などで知らせる仕組みです。この警報装置により、車に迫る牛の80%を回避できると見込まれています。

*エルニーニョ現象とは、中部太平洋から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象。

出所: 各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。